

図書室だより

Matsuidaminami junior high school library report

No.7



きんもくせい

金木犀の香りに誘われて、お月見？

秋の夜長という言葉があるように、この季節になると夜が長くなった感じがしますね。旧暦で九月のことを長月といいます。秋の夜が長くなってきたことを表す呼び方ですね。

空気が澄んできて、夜空の月や星がきれいに見えると思います。秋の月を愛でる風習は『枕草子』などにも描かれています。

(略)……八月十餘日の月明かき夜、右近の内侍に琵琶ひかせて……(略)庇の柱によりかかりてもものもいはでさぶらへば、「など、かう音もせぬ。ものいへ。さうざうしきに」とおほせらるれば、「ただ秋の月の心を見侍るなり」と……
「枕草子九十六段」

(略)……八月十余日(中秋の名月)の月が明るく照らす夜、右近の内侍に琵琶を弾かせて……(略)庇の柱に寄りかかりながらものも言わずに佇んでいると「なんで、そのように音もたてずに静かにしているの。何か言って。さみしいじゃない」とおっしゃるので、「ただ秋の月の心(気持ち)をみているのです」と……

現代語訳を載せました。琵琶の音が響くなかお月見をする、なんて風流ですね。長い夜の過ごし方としては屋内で歌を詠んだりお酒を飲んだりといった宴をするだけでなく、意外と夜出かけたりしていたんですよ。夜のドライブなんかもしていました。牛車でね。清少納言は夜遊びして牛車で川辺を散歩したとき、車輪のあげる水しぶきに月の光が反射してきらきら光るのが水晶のかけらを見ているみたい、と書いています。キャピキャピした乙女ですよ。

お月見の頃になると金木犀の花が咲き始めます。一つ一つの花は小さいのに満開になると香の拡散が広範囲になります。この香りは秋を感じさせますね。

『時をかける少女』/筒井康隆はラベンダーの香りが物語のキーワードになっていました。香りや味覚が過ぎ去った出来事を思い起こさせることってありますよね。そんな感覚のことをブルースト現象と言います。フランスの作家M・ブルーストの『失われた時を求めて』という小説の主人公がプチマドレーヌを食べながら紅茶を飲んだ瞬間に過去のいろいろなこと思い起すシーンから名づけられています。